

《各県コーナー》

# 地域の魅力を高める千種川での災害復旧について

……………兵庫県西播磨県民局光都土木事務所河川復興室

## 1. はじめに

兵庫県では、佐用町を中心に甚大な被害をもたらした平成21年8月の台風第9号災害からの復旧・復興のため、総延長54.6kmにわたる河川改修に取り組んでいます。

ここでは、この河川改修に併せ、佐用町の復興を支援することを目的に実施している、「地域の魅力である歴史的景観に配慮した河川整備」、「河川管理用通路等を活用したリバーウォーキングコース整備」など、さまざまな取り組みについて紹介します。

佐用観測所で最大時間雨量81.5mm、24時間雨量326.5mmという既往最大の降雨量を記録し、佐用町を中心に死者行方不明者20名、浸水家屋2,000戸以上の甚大な被害をもたらしました。

兵庫県では、この災害からの復旧・復興を目的に、平成21年度から千種川水系緊急河道対策（以下、「緊急河道対策」という）として、千種川、佐用川等で延長54.6kmにわたる河川改修を実施しています（図-1）。

平成25年度末時点の進捗率は、護岸工事の着手率91%（完成率79%）であり、特に被害が甚大であった佐用川では、着手率94%（完成率85%）となっています。

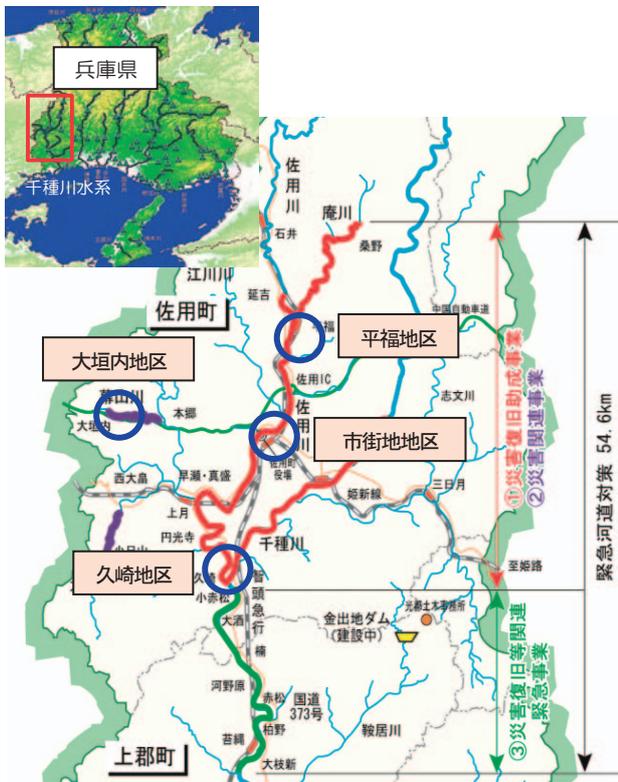


図-1 千種川水系緊急河道対策の概要

## 2. 河川改修の状況

平成21年8月の台風第9号災害では、気象庁

## 3. 取り組みの概要

平成21年8月の台風第9号災害からの復旧にあたっては、緊急河道対策による河川改修を行うだけでなく、復旧後の佐用町復興、更なる魅力向上に資することを目的に、各地区の特徴を踏まえた改修方法、今後の利活用等を地域住民、佐用町とともに検討し、さまざまな取り組みを行うこととしました。

平福地区では、歴史的景観等を活かした河川改修等、久崎地区では、桜堤の再生等、市街地区では、地域交流・健康増進を目的としたウォーキングコースの整備、大垣内地区ではホテルの再生への取り組みを行っています。

以下、各地区での取り組み状況について詳述します。

## 4. 各地区での取り組み

### 4-1 平福地区

佐用町平福地区は、江戸時代に建造された利神城の城下町として町並みが形成され、その後、因幡街道随一の宿場町となり、現在でもその武家屋

《各県コーナー》



写真－1 川端風景と改修状況



写真－2 遊歩道等整備状況

敷跡や大正期以前の建築物が残る歴史的景観を有した地域であります。特に佐用川右岸側沿いの石垣に並ぶ川座敷、土蔵群が当地区ならではの川端風景を形成するなど、風光明媚な地であります。

このことから、当地区の河川改修にあたっては、川端風景等の景観との調和を図り、歴史的景観の維持及び地域の更なる発展のため、佐用町、地域住民の参画と協働による景観検討会を実施しました。



図－2 平福地区遊歩道整備等概要図



写真－3 護岸整備状況 (石垣石材活用)

検討の結果、護岸は、コンクリートブロックではなく、コンクリートを使用しないアンカー付空石積護岸とするなど、歴史的景観に配慮した河川改修を行うこととしました(写真－1)。

また、佐用川沿いの風情ある景観等が観光資源として活用されるよう、佐用川左岸側の河川管理用通路の遊歩道整備や、巨石を利用したベンチの設置、誘導案内板等を設置するなど、宿場町と川沿いを散策する新たな周遊コースを整備しました(図－2)。

その他、護岸の一部には、埋蔵文化財調査で発掘された堀の石垣の石材を活用しています(写真－3)。

4-2 久崎地区

千種川と佐用川に囲まれる佐用町久崎地区は、平成21年災害のみならず、過去に幾度となく水害を受けている地区であります。地区住民の川への思いが強い地区でもあり、改修で失われる「桜堤の再生」や「水害経験の継承」を望む声が多く聞かれました。このような背景から当地区の復興に資する川づくりについて、地区住民らとともに検討し、緊急河道対策に併せ、地域住民の憩いの場となるかつての桜堤の再生と水害経験を後世に伝える仕掛けを備えた周遊コースの整備を行うこととしました。

去る平成26年3月6日には、地元の久崎小学校全校児童や地元自治会による「桜つつみ植樹会」を開催しました。

また、佐用町は、復興の象徴的な場所として、当地区に復興祈念碑の設置

《各県コーナー》



図-3 久崎地区整備概要図



写真-4 植樹会 (H26.3.6) の参加者



写真-5 久崎地区整備状況

を予定しており、千種川と佐用川の合流点に新たなスペースが創出できることから、このスペースに復興祈念碑を誘致し、「復興ひろば」と位置づけ、佐用町と協働して整備を行うこととしています。

4-3 中心市街地地区

平成21年台風第9号による被害が甚大であった佐用町中心市街地では、河川改修に併せ、市街地の復興を支援するため、河川改修で整備する河川管理用通路等を活用したリバーウォーキングコースを整備することとしました。

ウォーキングコースのコース設定や沿道の魅力づくり等に取り組むにあたっては、地域の参画と協働を得るため、佐用川での取り組みやウォーキングコース整備に向けた検討状況などの情報発信を行うニュースレターを地域住民とともに発行しています (図-4)。



図-4 ニュースレター・缶バッジ

## 《各県コーナー》



写真-6 ワークショップの様子

また、ニュースレター発行のほか、川に興味をもってもらうための取り組みとして、「大好き、佐用川。」をキャッチコピーに、オリジナルキャラクターをつくり、缶バッジとして配布するなど、持続的に川への意識を保持させる取り組みを行っています。

## 4-4 大垣内地区

過去から自治会が中心となり、地域ぐるみでホテルの保全に取り組んできた佐用町大垣内地区を流れる幕山川では、このホテルを地域のシンボルとして守るため、幕山川の環境保全、特にホテルの保護について、地域からの声が大きかった。

このことから、地域住民とともに、洪水に左右されないホテル等の生息環境を新たに創出する効果的な整備計画や、整備した施設の機能を持続的に維持していくための維持管理、地域の子供たちの環境学習の場としての活用方策等について検討しました。

その結果、改修後も地域の方々が愛着を持てる河川となるよう、子供たちの環境学習や、水害の教訓を語り継ぐ防災学習の場として、旧河川敷にホテル水路やワンドを配した「大垣内ふれあいの水辺公園」を計画し、施設整備を行うこととしました。

水辺公園は、水路整備エリアにはホテル水路を、ワンド整備エリアにはワ

ンドを整備し、両エリアに地域で選んだ樹木の植樹、また、小学校児童が描いた水生生物の絵を配した案内看板を設置するなど、完成後も慣れ親しんでいただくための工夫を凝らしました。

去る平成26年4月21日に地元自治会、周辺住民、幕山小学校全校児童を招待し、完成記念式典を開



写真-7 小学校児童による植栽

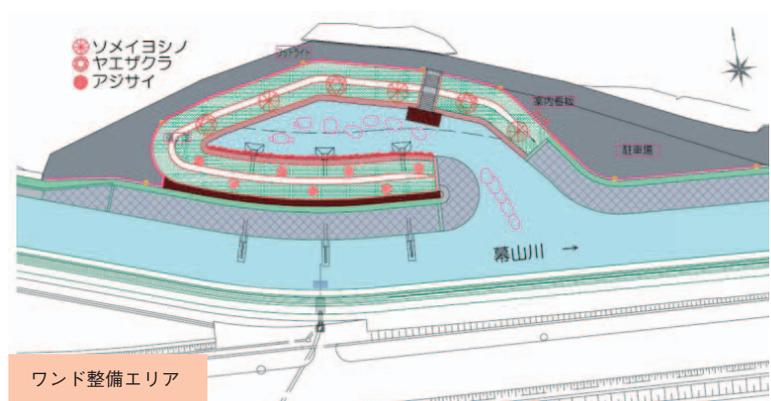


図-5 ワンド整備エリア概要図

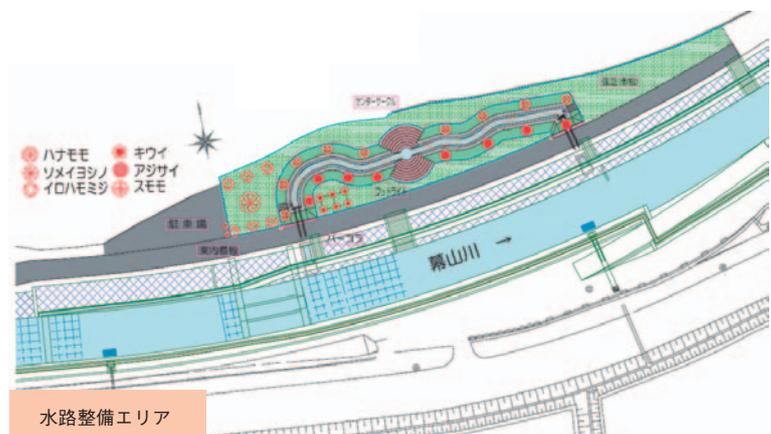


図-6 水路整備エリア概要図

## 《各県コーナー》



写真－8 小学校児童対象の見学会

催しました。当日は、今後もこの公園や河川に愛着を持っていただくことを念頭に、小学校児童による植樹などを行いました。

#### 5. おわりに

平成21年台風第9号災害を契機に実施している緊急河道対策が終盤に差し掛かり、災害からの復旧は順調に進捗しています。

このような大規模災害では、地域住民の方々の安全・安心を確保するため、できる限り早期に公

共施設の復旧等を行い、洪水を安全に流下させるための治水事業を完了させることが最重要課題であります。

しかし、大規模な災害であったからこそ、災害からの復旧だけでなく、本当の意味での復興を成し遂げることが重要であり、にぎわいを取り戻し、更なる魅力向上に資する取り組みを地域住民、地元市町と協働して、実施していくことも重要であります。

県では、今回紹介した取組みとともに、公共施設に愛着を持ってもらえるよう地元の住民や小学生等を対象とした体験型の現場見学会(重機操作、鉄筋組立等)などを開催しています。

この大規模な河川改修とこれらさまざまな取組みにより、佐用町が甚大な災害からの復興を遂げることが心から願うとともに、地域住民の方々や、佐用町を訪れる方々に、魅力的なまちになった、活気が出たと感じていただければと考えています。

最後になりますが、平成21年台風第9号災害から生まれ変わった佐用町に一人でも多くの方に足を運んでいただければ幸いです。